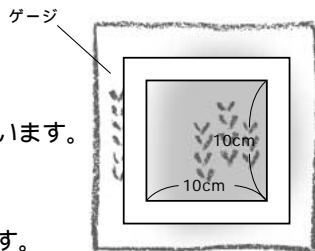


ゲージを編んでみよう！

ゲージとは

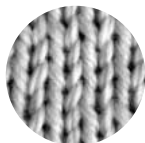
同じ編み図、同じあみ針、同じ毛糸を使って編んでも、人によって編む手の力の強さが違うため、仕上がりのサイズがそれぞれ異なってしまいます。誰が編んでも同じサイズに仕上がるよう、一辺10cmの四角形の中にいくつ編み目が入るか指定するために、試し編みしたものを「ゲージ」と呼び、編み図には必ず「目数×段数」で表示されています。



1. 毛糸とあみ針を用意し、長さが約20cmになるまで1段目に作り目をつくります。

作り目 作り目の
作り方PDF

2. 2段目からメリヤス編みを編みます。



メリヤス編み

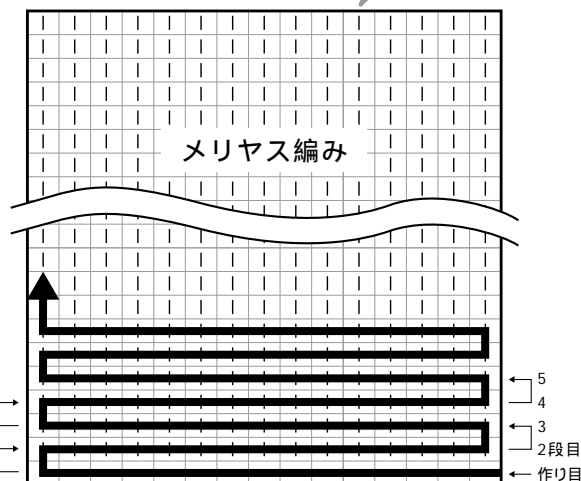
表面から見ると全て表編みでできあがっている編み地のことをいいます。

編み地は一段ごとにひっくり返しながら編み、編み図はジグザグに上へ向かって編み進めます。

□ 表目(表編み)の記号

2-1. 作り目のある針を左手に持ちかえて2段目を裏編みで編みましょう。

裏編み 基本の編み方PDF/2P



編み図では全部表目なのに、なぜ裏編みが出てくるの？



一般的な編み図では、表から見た目の記号を表記しています。裏面を自分の方に向けて編む場合は、編み目も編み図に表記されているものとは逆に編みます。

作り目をついたら

2段目を編む時あみ針を左右に持ちかえるので、編み目が裏返ります。



だから、2段目(偶数段・裏面)を編む時、

□ 表目は □ 裏目に、 □ 裏目は □ 表目に、頭の中で変換して編みます。

2-2. 2段目が編み終わったら、針を持ちかえて3段目を表編みで編みましょう。

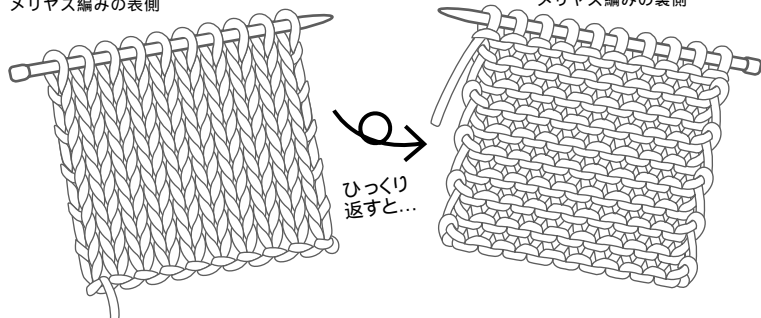
偶数段は裏編み、奇数段は表編み、その繰り返しがりメリヤス編みね！



2-3. 高さが約20cmになるまでメリヤス編みを編みます。

メリヤス編みの表側

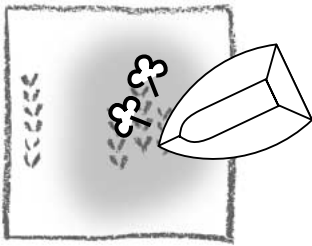
メリヤス編みの裏側



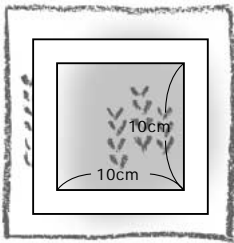
POINT

仕上がってからメリヤス編みの裏面を見ると、全て裏目になっていることがわかります。表目も裏目も実は同じ一つの編み目であり、表面から見たものを「表目」と呼び、裏面から見たものを「裏目」と呼んでいるだけなのです。

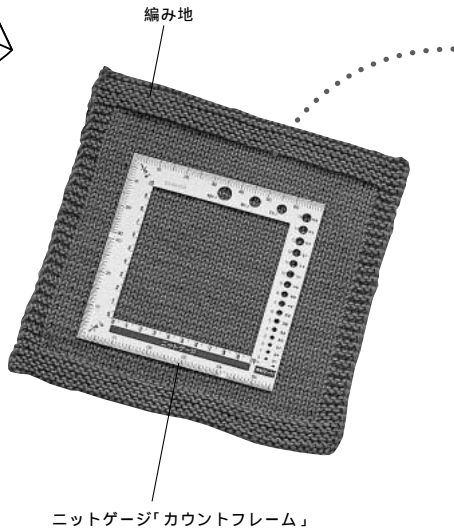
3. ゲージを測りましょう。



1 編み目をつぶさないようにスチームアイロンを軽く掛けます。



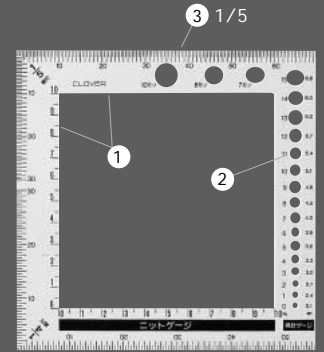
2 平らな場所に置いた編み地の中央の10cm角に、何目・何段あるかをニットゲージで測ります。



クロバーのあみもの用品

ニットゲージ「カウントフレーム」
1/4・1/5縮尺機能付

多彩な機能が付いたあみものゲージです。



① ニットゲージ

10cm × 10cmの窓から、目数と段数を一度に数えることができます。

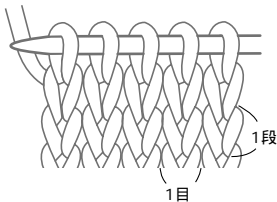
② 棒針ゲージ

棒針の太さや号数を調べます。

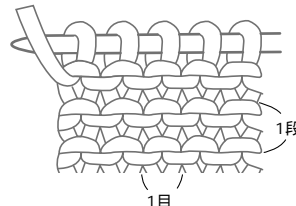
③ 1/4・1/5縮尺

縮尺定規でコンパクトに製図ができます。

編み目の「目」と「段」の数え方



表目は「V型」の編み目を1目、1段と数えます。



裏目は「凵型」の編み目を1目、1段と数えます。

ゲージは編めたけど、指定のゲージに合わないよ～どうしよう！



マフラーや帽子を編む場合、ゲージの多少の誤差は問題ありませんが、ベストについてはサイズが重要となるため、必ずゲージを測ってから編み始めましょう。

ゲージは編めたけど、指定のゲージに合いません。そんな時は...

➡ ゲージがゆるいなら

カウントフレームの中に入る目数が指定のゲージより少ないのが、ゆるいゲージです。この場合、あみ針を1～2号細めに選んで編み直します。



➡ ゲージがきついなら

カウントフレームの中に入る目数が指定のゲージより多いのが、きついゲージです。この場合、あみ針を1～2号太めに選んで編み直します。

